

JAPAN CUP2025 チアリーディング日本選手権大会 まもなく開幕！ DIVISION 1 高等学校部門 昨年大会優勝 箕面自由学園高等学校 6 連覇なるか

JAPAN CUP2025 日本選手権大会の自由演技競技ディビジョン1 高等学校部門で、箕面自由学園高（大阪府）は大会6連覇を目指している。

コロナ禍の中で身体的接触や発声のないタンブリング、ダンス、ジャンプなどに限定した、チアリーディング スピリッツ演技競技で出場した 2020 年を含めると昨年までディビジョン1 を5連覇中。大会まであと2週間ほどに迫ったお盆の時期にチームを訪ねると、Aチーム（ディビジョン1 出場チーム）を担当するコーチはこう話してくれた。

「仕上がりはまだ6割くらいです。新しいことにいっぱい挑戦しているので、皆さんが見たことのない演技を披露したいです」



2009 年にジャパンカップ9連覇を達成するなど、何度も日本一に輝いてきたチームだが、今年は例年以上に強い危機感を抱いている。

今年1月末に開催された「全日本高等学校選手権大会」では、ディビジョン1 で梅花高（大阪府）、如水館高（広島県）に続く3位に終わった。久しぶりに流した悔し涙だった。

そこから再起を誓い、3月に岡山県で行われた全日本選抜選手権大会で大学チームを抑え総合優勝。ジャパンカップ地区予選となる6月の関西選手権大会では、梅花高との戦いを制して頂点に立った。

前述の全日本高等学校選手権で、梅花高は高校チームでは史上初めて、3回横回転を行いピラミッドにのぼる“トリプルアップ”3台を成功。すると今度は、6月の関西選手権で箕面自由学園高が、梅花高を上回るトリプルアップ4台を決めた。

2025年のジャパンカップは、難易度の高い演技が繰り広げられることが予想される。箕面自由学園高の監督は「関西選手権の点数よりも、もっと上を目指したいと思っています」と力を込めた。

再び、トリプルアップ4台に挑戦するのだろうか？

コーチに聞くと、笑顔でこう答えた。

「演技構成は関西選手権とは全く変わると思います。ケガ人が出たのでメンバーも何人か変わる予定です。大会会場の代々木ではGOLDEN BEARSらしく、会場全体を巻き込むような演技を見せたいと思います」



8月10日から1泊2日で行われた合宿までは、人を感動させるような演技ではなかった。

「見ていても楽しくない、意思のない演技でした。何も（心に）響いてこなかった」

一昨年度のキャプテンで、現在は早稲田大学に通う OG の言葉で部員は目が覚めたという。

「みんながこの学校を選んだ意味って何なん？ やっぱり日本一になりたいからだよね？」

もう2度と、悔し涙は流したくない。1月の全日本高校選手権のように。

その時、ようやく全員に覚悟のようなものが芽生え、意思のある演技をしようという思いになった。

監督はこう言う。

「私たちには応援してくださる方がたくさんいる。その方々に、悔しい思い、悲しい思いをさせてはいけません。負けられない理由はたくさんある。もうあんな思いはしたくないから」

大会を目前に控え、選手たちの心も1つになった。

キャプテンの言葉は印象的だった。



「私たちは『勝ちたい、勝ちたい』と言い続けてきたけれど、気づいたら、ただやらされているだけの演技をしていました。本気なつもりで、本当の本気ではなかった。コーチや OG の方にいろんな思いを伝えて頂いたことで、自分たちは目標を決めたんです。『愛返し』をしよう！って。頂いた愛を、私たちの演技で応援してくださる方に返さないといけない。自分たちのありのままを出そうと決めた時に、やっと演技の中に『意思』が出せるようになりました」

見る人の心に響く2分半を見せる。それが GOLDEN BEARS としてのプライドでもある。



本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。

Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.